



静岡の焼き物、美濃和紙、有松絞り、中日ガラスなど
中部のものづくりを体感する天空のロビーラウンジ

インテリアアワード2024優秀賞受賞作品

ザ ロイヤルパークホテル アイコニック 名古屋
✓見学会のご案内

講師：竹中工務店 大阪本店 設計部 黒柳 亮様
又は 名古屋支店 設計部 柳澤 隆様

日時：2025年3月7日(金) 13:00~15:00
集合：ホテル1階エントランス前 12:45
(中日ビル1階 南側)

会費： CIP会員：2,000円

募集人員：20名 (JIPAK:10名、CIP:10名)
*事前申込要・先着順

お申し込みは
cip@chubu-ip.com
(CIP事務局:052-265-5110)
申込締切：2月28日(金)

主催：日本インテリアプランナー協会 関西
大阪市中央区安土町1-7-13 トヤマビル本館9階
E-mail：info@iipak.or.jp Tel：06-6266-5735
HP：<http://iipak.or.jp>

共催：日本インテリアプランナー協会 中部

JIPAK
Japan Interior Planner's Association, Kansai

CIP
Japan Interior Planner's Association, Chubu



インテリアアワード2024優秀賞受賞作品

ロイヤルパークホテル アイコニック 名古屋 見学会のご案内

アクセス：地下鉄 東山線・名城線「栄」駅
から中日ビルまで 地下街 直結

集合場所：〒460-0008
名古屋市中区栄4-1-1
中日ビル1階 南側
ホテルエントランス前

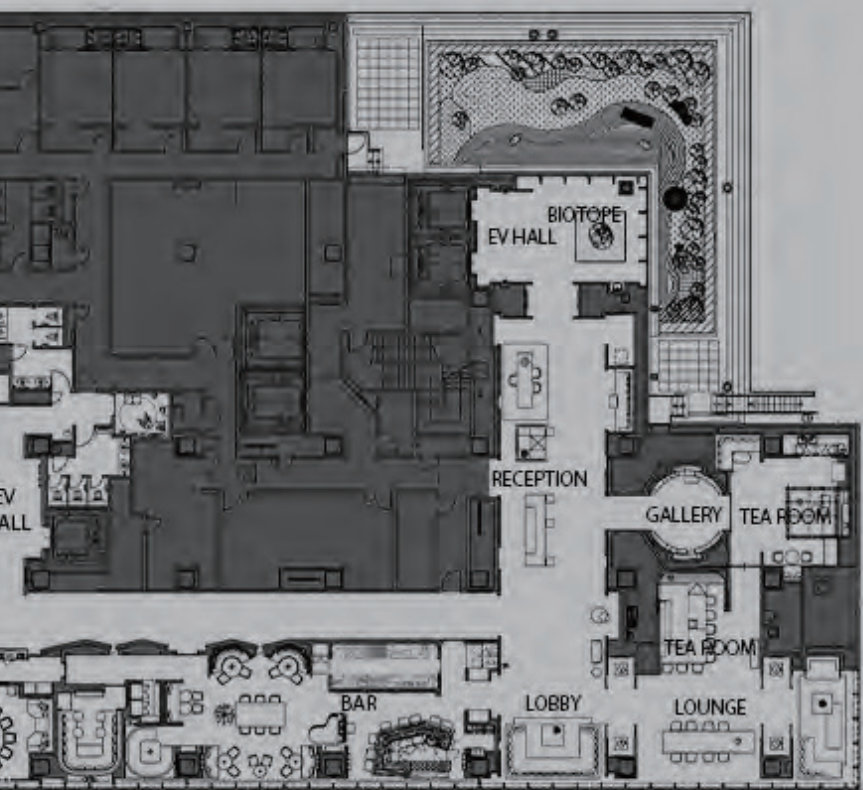
見学日時：2025年3月7日(金) 13時～15時
*開始時間の**15分前(12:45)**までに
ご集合をお願いします。

特別企画

「関西と中部 との交流食事会」ご案内

と き：2025年3月7日(金)17:00～19:00
ところ：名古屋駅近辺(決定次第ご案内致します)
参加費：5000円前後
申込先：CIP事務局までメールで 締切：2月28日
主 催：日本インテリアプランナー協会中部(CIP)

※見学会欠席の方のご参加も歓迎いたします



24階ロビー・ラウンジ



スタンダードツイン
(27.9㎡)

DEEP CHUBU, DEEP JOURNEY.

旅する、チュウブ。

中部地方全域と繋がった体験が唯一無二のホテルをつくる。

中部を旅する、それは知らなかった「本当の日本」を知る旅。戦国時代に生まれた中部のものづくりの国々は、その技術と文化が昇華され、時を超えて今もお力強く存在する。その美しい片鱗を集めて「中部を旅するホテル」をつくった。いたるところに、土、木、紙、布、金属、ガラスなどの素材、壺や花器などが散りばめられている。これら目に留まるものから客室で使う器までは全て中部の作家、名工、職人たちによってつくられている。本来は何も語らないこの「静物」たちが、ここではものがたりを奏でている。

LOBBY

24階ロビー・ラウンジは、日本的な「間の繋がり」を意識しながら回遊させ、より奥へと誘う。と同時に視線の先にはダイナミックなアートや素材を配置し、ポイントとなる様々な箇所ですぐゲストへ中部のものがたりを届けるよう綿密に計算されつくしている。

GUEST ROOM

トイレとバス以外には間仕切を設けていない事で、同サイズのお他ホテル客室と比較しても群を抜いて広く感じる。ミニバーと洗面が一体となったマルチカウンターなど、様々な工夫によって完成した。



岐阜高山
抜士秀平氏の左官アート壁



静岡
土の息吹を感じる
田宮亜紀氏の大壺



名古屋
SUZUSAN
有松絞リクッション



三重
杉板でつくられた横濱金平
氏のウッドスピーカー



岐阜美濃
千田崇統氏が瀧く山並み
のような美濃和紙壁



愛知
中日ステンドアート
積層硝子

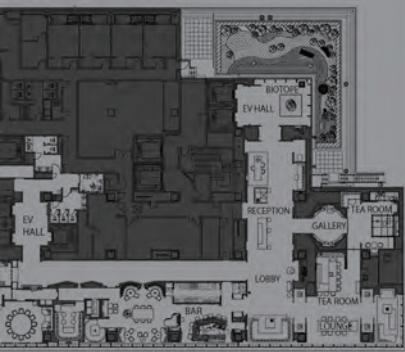
DEEP CHUBU, DEEP JOURNEY. 旅する、チュウブ、時と間。

中部を旅する、それは知らなかった「本当の日本」を知る旅。
戦国時代に生まれた中部のものづくりの国々は、その技術と文化が昇華され、時を超えて今もなお力強く存在する。その技術の片鱗を集めて「中部を旅するホテル」をつくった。次々と現れる「間」には「中部の記憶を継承したもの」が散りばめられ、ゲストを時空の旅へと誘う。



中部のものづくりを設えたホテルロビー

LOBBY
21階ロビー・ラウンジは日本的な「間の繋がり」を意識しながらより奥へと誘う。空間の切り替わりで、視線の先には中部のアートや素材を配置し、ポイントで自然と中部を感じれる空間づくりをしている。同時に円形キャブリーをつくり中部のものづくりを紹介している。



三重尾鷲槍による茶室で愛知のお茶を楽しめる

GUEST ROOM
トイレとバス以外は一切間仕切を設けない事で、阿南類の他ホテルと比較すると壁を抜いて広く感じる。さらにかく仕切るアートスクリーン、ユニバーと画面が一体となったバーカウンター、大きな推車収納などにより煌々たるだけではない「中部的に魅惑するゲストルーム」が完成した。



芸術をイメージしたアートバーカウンター



中部のからでりるアートスクリーン
7,900円(税別)



安土城の水車画、松林絵、美濃和紙がゲストを中部に誘い、中部の焼き物の器でお茶を楽しめる。五感で楽しむアイコニックゲストルーム



岐阜高山・挟土秀平氏
三英傑(信長、秀吉、家康)の花押を表現した壁一面の左官アート



岐阜高山・挟土秀平氏
左官アート壁

DEEP CHUBU, DEEP JOURNEY.

旅する チュウブ、ものづくり。

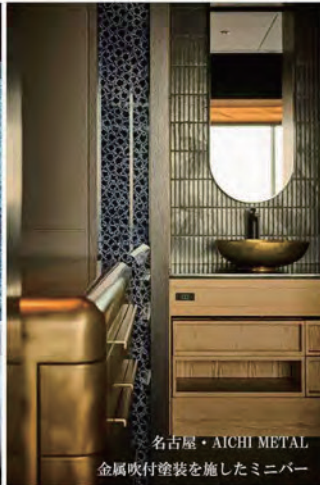
いたるところに、土、木、紙、布、金属、ガラスなどの素材、壺や花器などが散りばめられている。これら目に留まるものは、ロビーのアートから客室で使う器までは全て中部の作家、名工、職人たちによってつくられている。本来は何も語らないこの「静物」たちが、ここではものがたりを奏でている。



飛騨山脈、長良川、伊勢湾へと続く中部の地形を模した中部の植生によるビオトープ



三重・横濱金平氏
杉板で作られたウッドスピーカー



名古屋・AICHI METAL
金属吹付塗装を施したミニバー



静岡・田宮亜紀氏
土の息吹を感じる大壺



三重
蕨野石を使用した客室テーブル



岐阜で集めた木材そのものが本棚のように壁を彩るオールデイダイニング



中部のものづくりと繋がる
ギャラリー



岐阜美濃・千田崇統
手書き和紙による山並みデザインは窓外の水平線と合わせて古今の景色を繋げる



実際に中部全県を訪ね、
そこで共に創ったリアルなもの。
美しくそこに在るその裏には
もっと深い物語がある